

令和6年度特別研究員公募について

昨年度からの変更点

- ・ 科研費（特別研究員奨励費）の応募も同時に行う必要があります

(留意事項)

科研費電子申請システムではなく、「研究者養成事業電子申請システム」にて特別研究員の応募と同時に行います。

事務的チェックでのチェック内容

- ・ 申請者情報
- ・ 文字化け
- ・ 様式
- ・ レイアウト等

(留意事項)

研究内容等については、事務では確認できないため、受入研究者等でご確認をいただく必要があります。

また、事務的チェックに間に合わない場合は、事務的チェックで行う箇所・内容について、応募者・受入研究者にてチェックを行う必要があります。

(例年、事務的チェックに間に合うのは3分の1以下)

事務的チェックによくある誤り

- ・ 様式誤り（去年の様式を使用）
 - ・ レイアウト崩れ
 - ・ 査読有無の記載漏れ
 - ・ ページ番号のずれ
 - ・ 入学、卒業年度の矛盾
 - ・ 修士課程→博士前期課程（医学除く）
 - ・ 科研費の費目誤り
 - ・ 科研費の申請漏れ
- （研究期間3年にも関わらず、研究費は1年分の申請しか行っていない場合、など）

(申請書情報)

事務的チェック(1~2頁):
赤丸箇所の入力情報(文字数制限、年月日の整合性、未記入項目、他ページとの不一致)の確認

受付番号

審査区分	③小区分名		
	④小区分コード		⑤専門分野

⑥研究課題名	
--------	--

〇〇大学

1. 申請者情報等

(申請機関コード:)

⑦氏名	(フリガナ) 登録名	
-----	------------	--

⑧学歴 (学部・修士)	1. 年 月 大学 学部 学科卒
	2. 年 月 大学大学院修士課程入学 (研究科 専攻)
⑨博士の状況	1. 入学年月:(西暦) 年 月 編・転・再入学
	2. 編・転・再入学時の在学期間換算: 年 ヶ月
	3. 大学院名:
	4. 研究科名:
	5. 専攻名:
	6. 課程種別:
	7. 休学期間合計: 年 ヶ月
	8. (西暦) 2024年4月1日時点における博士在学期間累計(休学期間を除く): 年 ヶ月
⑩研究・職歴等	1. 年 月 ~ 年 月
	2.

⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙: ○

⑪博士の特記事項の有無			
	(博士の特記事項)		
⑫現在の研究指導者	(フリガナ)氏名		職名
		研究者番号	
	所属機関		
	部局		
	連絡先		
⑬採用後の受入研究者	(フリガナ)氏名		職名
		研究者番号	
	所属機関		
	部局		
⑭採用後の申請者所属研究科正式名			

見本

特別研究員-DC申請者⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙

申請書1ページ「⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等」欄にて、必要事項を記載できなかった場合は、本ページ内に全て記載してください。記載する際には、既に入力済の部分も含め全て記載してください。

事務的チェック（3～11頁）：

**申請様式、レイアウト崩れ、ページ番号ずれ等の外観確認のみ
記載内容は確認していません。**

(このページには何も記載せず、空白のまま提出してください。)

2. 【研究計画】 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(1) 研究の位置づけ

特別研究員として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

【研究計画】(続き) 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(2) 研究目的・内容等

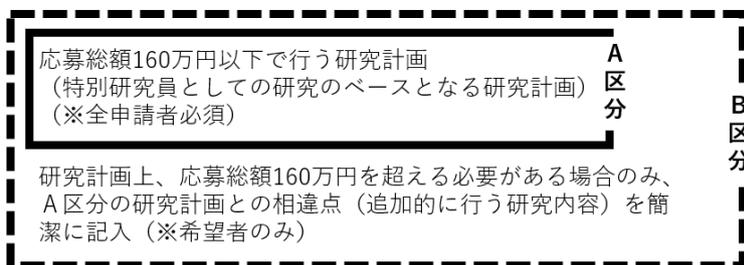
- ① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
- ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、特別研究員奨励費の応募区分（下記(※)参照）に応じて、具体的に記入してください。
- ③ 研究の特色・独創的な点（先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）にも触れて記入してください。
- ④ 研究計画が所属研究室としての研究活動の一部と位置づけられる場合は申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することも計画している場合は、具体的に記入してください。

(※) 特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合の応募総額は（A区分）が240万円以下、（B区分）が240万円超450万円以下（DC1のみ）。2年の場合は（A区分）が160万円以下、（B区分）が160万円超300万円以下。1年の場合は（A区分）が80万円以下、（B区分）が80万円超150万円以下。（B区分については研究計画に必要な場合のみ記入）

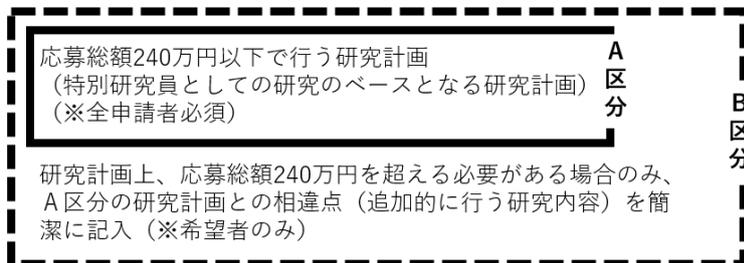
(注) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文及び図は申請書を作成する際には消去してください。

- ・(A区分)の研究計画は、必ず記入してください。その上で、(B区分)研究計画、応募総額が(A区分)の金額を超える必要がある場合のみ、(A区分)の研究計画との相違点(追加的に行う研究内容)を簡潔に記入してください。

●応募区分に応じた研究計画のイメージ図 DC2で特別研究員奨励費の研究期間が2年の場合



●応募区分に応じた研究計画のイメージ図 DC1で特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合



- ・(A区分)と(B区分)のどちらを選択したかは、特別研究員の選考における審査及び特別研究員奨励費の審査に影響はありません。
- ・特別研究員奨励費は令和5(2023)年度応募分より基金化しています。
- ・海外の研究者との交流、海外での研究など海外研さんに関する計画がある場合には、積極的に記入してください。

(研究目的・内容等の続き)

3. 人権の保護及び法令等の遵守への対応 本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本欄には、「2. 研究計画」を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を記入してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、行動調査（個人履歴・映像を含む）、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記入してください。

なお、該当しない場合には、その旨記入してください。

4. 【研究遂行力の自己分析】 各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本申請書記載の研究計画を含め、当該分野における(1)「研究に関する自身の強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、具体的に記入してください。

(注) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- ・ 下記(1)及び(2)の記入にあたっては、例えば、研究における主体性、発想力、問題解決力、知識の幅・深さ、技量、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの観点から、具体的に記入してください。また、観点を項目立てするなど、適宜工夫して記入してください。

なお、研究中断のために生じた研究への影響について、特筆すべき点がある場合には記入してください。

(1) 研究に関する自身の強み

(注) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- ・ 記述の根拠となるこれまでの研究活動の成果物(論文等)も適宜示しながら強みを記入してください。

成果物(論文等)を記入する場合は、それらを同定するに十分な情報を記入してください。

(例) 学術論文(査読の有無を明らかにしてください。査読のある場合、採録決定済のものに限ります。)

著者、題名、掲載誌名、巻号、pp 開始頁-最終頁、発行年を記載してください。

(例) 研究発表(口頭・ポスターの別、査読の有無を明らかにしてください。)

著者、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。(発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもよい。)

(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素

(研究遂行力の自己分析の続き)

5.【目指す研究者像等】 各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可

日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、(1)「目指す研究者像」、(2)「目指す研究者像に向けて特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ」を記入してください。

(1) 目指す研究者像 ※目指す研究者像に向けて身に付けるべき資質も含め記入してください。

(2) 上記の「目指す研究者像」に向けて、特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ

日本学術振興会特別研究員申請者に関する評価書

評価書作成者	氏名	
	所属機関名	
	部局名	
	職名	
申請者との関係		
申請者の(1)「研究者としての強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、具体的に入力してください。		
(1) 研究者としての強み		
(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素		

申請者の研究者としての将来性について

(特に優れた学業成績、受賞歴、飛び級入学、留学経験、特色ある学外活動など、申請者の将来性を判断する上で特に参考になると思われる事項があればそれに言及して記入してください。)

見本

研究者氏名				
資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割	令和6年度の研究経費（期間全体の額）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等（左記の研究課題に応募するに当たっての所属組織・役職）（科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額）
【本応募研究課題】特別研究員奨励費（R6～R8）	に関する研究	代表	1,500 (4,500)	
事務的チェック（14～15頁）： 申請様式、レイアウト崩れ、ページ番号ずれ等の外観確認 記載内容は確認していません				
			(千円)	

見本

(2) 受入予定の研究費

特別研究員奨励費 (特別研究員)

資金制度・研究費名 (研究期間・配分機関等名)	研究課題名 (研究代表者氏名)	役割	令和6年度の研究経費 (期間全体の額)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等 (左記の研究課題を応募するに当たっての所属組織・役職) (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
			(千円)	

見本

設備備品費：1品または1式で10万円以上のものであり、耐用年数1年以上のもの
 図書は10万円以下でも原則すべて設備備品費

使途	費目	注意事項
図書	金額に限らず、設備備品費	雑誌は消耗品
雑誌	消耗品	
PC、タブレット	金額による。	10万円以上であれば設備備品費、10万円未満なら消耗品
ソフトウェア	金額に限らず、消耗品	ソフトウェアライセンスはその他
ソフトウェアライセンス	その他	ソフトウェアは消耗品
試薬	消耗品	
英文校閲費（業者へ依頼）	その他	
英文校閲費（直接依頼）	謝金	
論文投稿料	その他	
利用料	その他	クラウドや、スパコン利用料等
賃借料	その他	会場賃借等
保守費用	その他	
会議費	その他	
委託費	その他	シーケンス解析
学会参加費	その他	
バイアウト	その他	
印刷費用	その他	
通信費	その他	

なお、**旅費の定額区間**や**謝金単価**等につきましては、財務会計システム発生源入力機能操作説明書（Ver.3.4）に詳細な記載がございます。

【掲載場所】

- ・名大ポータル 事務手続>財務>マニュアル>（名大版）発生源入力機能操作 説明書 Ver.3.4
- ・教職員のための全学掲示板 財務会計システム手引>財務会計システム発生源 入力機能操作説明書 Ver.3.4
- ・ガルーン>事務向け掲示板>財務関係>財務会計システム（GrowOne財務会計）>操作マニュアル（教員向け）>発生源入力機能操作説明書 Ver.3.4